

藤波こども園

令和6年度 園長だより No.3

令和6年6月10日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

見て 聞いて 感じて育つ 子どもたち



新年度がスタートして2ヶ月が経ち、一学期も中間地点となりました。子どもたちは縦割りの集団（ホーム）のお友だちや年齢別の集団（クラス）のお友だちと過ごし、自分の思いを発したりお友だちの気持ちを察したりしながら、育ち合っている様子が見えます。

保育者のロールプレイで 自らを客観視

毎日と一緒に過ごしているとトラブルになるのもよくあることです。先日、こんなことがありました。

部屋の片隅で絵本を見ていたA君のところへB君がやって来ました。一人で静かに絵本を見たかったA君が一言「入ってこんといて。」これにB君は嫌われたと思ったのか、A君をたたいたり積み木を部屋の中で投げたりしてしまいました。周りにいた子どもたちもビックリ。

さて、この子たちにどのようにして人とのコミュニケーションのとり方を気づかせようか、周りにいた子どもたちがその様子を見てどう思ったのか、そしてこの子たちが人の気持ちを考えながら仲良く過ごしていけるようにするにはどうすればいいだろうか。悩んだ

保育者たちが出した方法は「明日、私たちがロールプレイをしよう。私たちの」



ロールプレイできっとあの子たちは気づいてくれるはず。それに、感じたことを発言してくれるだろう。」そして翌日、保育者のロールプレイが始まり、乱暴な素振りを見せるやいなや、子どもたちからは「ダメー」「叩いたらダメ」「投げたらあかん」の連呼。

その後、保育者と子どもたちはこんなやりとりをしていました。

保育者① 「さっき、なぜダメと言ったの？」

子どもたち「積み木が当たったら危ないから」

「叩かれたら痛いから」

保育者② 「(①)先生、なんで叩いたの？」

保育者① 「一人で静かに本を読みたかったのに、横に来たから」

子どもたち「そこはみんなが本を読むところ」

「入らせてと言えばよかったのに」

「怒ったらダメ」

「積み木を投げるのはダメ」

「積み木が当たったら痛いからダメ」

「叩かれたら痛いからダメ」

保育者① 「先生たち、けんかしたけど・・・。」

どうしよう」

子どもたち「前に僕もけんかしたけど、『ごめん』って言った」
（裏面につづく）

「お話しして仲直りした」

保育者①「なんでお話しできたの？」

子どもたち「月組になったから」

「月組はお話ししたり相談したりできる」

「けんかしたらイ

やな気持ちになる

けど、お話しした

ら仲直りできる」



「前は赤ちゃんやったけど、大きくなったから考えられる」

「けんかしてたら『やめて』と言う」

「誰かがけんかしたら、僕がレスキューしたげる」

保育者①「みんなで『ニコニコ』ですごそうか」

主に月組の子どもたちが自分の経験を基に、思うことをどんどんと発言していました。この様子を理事長に話したところ、「子どもたちは日常的にどんなことでも保育者に聞いてもらえる、という安心感があるから臆せずと言えるのだろう。それと、縦割り保育で年齢の上の子どもの様子から学んで育ち合っていることで、いろんなことを考えられるようになっていないか。」とのことでした。

今後子どもたちが安心して自分の思いを出せるよう、関わっていければと思います。

地域の方と一緒にサツマイモ植え

～さくらんぼ広場～

地域の方（中村悦子さん、淵田香さん、山本義雄さん、山本房栄さん）にお世話になり、さくらんぼ広場に来園の親子のみなさんでサツマイモの苗を



植えました。秋にはきっとたくさん収穫できて、おいしい焼きいもをいただけそうです。

バーチャル体験

ドローンで工事現場の見学

「人と自然にやさ

しい未来の『川づく

り、道づくり、町づく

り』の工事」の「CE

SA」のメンバーで



ある大山建設さんと環境防人マスターの方たちにお越しいただき、鴨川の堤防づくりの様子をドローンで見せていただきました。重機車両の紹介の後、子どもたちからは「堤防マンのお話がおもしろかった」という感想が出たり、

- ・ショベルカーはどうやって運転するのですか
- ・ダンプカーの荷台はどうやって動くのですか
- ・何のために工事をするのですか
- ・町はどうやって作るのですか

などの質問を投げかけ、大山建設さんやリモートでつながっていた滋賀県土木事務所の方たちが丁寧に答えてくださっていました。終わってから「園児からの質問としてはレベルが高すぎて回答に戸惑った」と言っておられました。



リモート見学の後、園庭の上空にドローンを飛ばしていただき、子どもたちは不思議そうに、そして大喜びで眺めていました。